

表象メディア論A 栗原 詩子	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4		2	前期
備考：				

【講義の概要】

<テーマ>

メロディーや映画の一場面のような「時間的なもの (objet temporel)」は、私たちの意識と同様に「消え去っていく」ことを通じて現れる。「消え方」は、それを生み出す人によって異なり、その作品のスタイルを決定していくが、同時にある対象の「消え方」は、経験する人によっても異なっている。

<目標>

今学期は、ミュージックビデオを対象とし、その視覚的な部分のみならず、聴覚的な部分について、分析的に語る方法を身につける。

<概要>

時間・聴覚に焦点をあてた映画分析論の読解と、映画およびミュージックビデオの分析を、並行して行う。

<各回の内容>

- (1) スティグラー『象徴の貧困』(2004)の読解
- (2) メッツ「映画分析のための方法論的提案」(1968) の読解
- (3) メリエス『月世界旅行』(1902)・クロスランド『ジャズシンガー』(1927)・ケリー『雨に唄えば』(1952)の鑑賞と講解
- (4) オーモン『映画理論講義』(1983)の読解
- (5) エイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』(1925)の鑑賞と講解
- (6) シオン『映画にとって音とは何か』(1985)の読解
- (7) エイゼンシュテイン『ストライキ』(1924)・スピルバーグ『マイノリティ・レポート』(2002)の鑑賞と講解
- (8) ヒッチコック『サイコ』(1960)・溝口健二『山椒大夫』(1954)・クレール『パリの屋根の下で』(1930)の鑑賞と講解
- (9) プレソン『抵抗』(1956)の鑑賞と講解
- (10) Carson, “music video” Encyclopeia Britanica Onlineの読解
- (11) ビートルズ『ア・ハード・デイズ・ナイト』(1964)の鑑賞と講解
- (12) クイーン『ボヘミアン・ラブソディ』(1975)・バグルス『ラジオ・スターの悲劇』(1979)の鑑賞と講解
- (13) マドンナ『ライク・ア・プレイヤー』(1984)・『チェリッシュ』(1989)・『ジャスティファイ・マイ・ラヴ』(1990)の鑑賞と講解
- (14) ニルヴァーナ『スメルズ・ライク・ティーン・スピリット』(1991)・R.E.M.『ルージング・マイ・レリジョン』(1991)の鑑賞と講解
- (15) Bornberg, “video” The New Grove Dictionary of Opera, Oxford University Press, 2007の読解

【テキスト】

大学生協にてオリジナルテキスト『表象メディア論A』（予価1000円）を購入のこと

【参考書等】

- ・J.モナコ『映画の教科書』フィルムアート社, 1983.
- ・西村雄一郎『巨匠たちの映画術』キネマ旬報社, 1999.
- ・オーモン『映画理論講義』勁草書房, 2000.

【成績評価の方法】

授業中の小テストによる

【履修上の注意】

授業中に提示する音響・映像資料について、貸与やダビングの要請には応えられません。